



一般社団法人

日本肩関節学会

Japan Shoulder Society

Newsletter

14

2020.06

▶ 理事長あいさつ

一般社団法人日本肩関節学会理事長 池上博泰



日本肩関節学会会員の皆様、紙面をお借りしてご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大も小康状態を迎え、少しほっとされているところかと思えます。他方で、診療中も感染防止に神経を使われ、また厳しい医療機関の運営状況にお困りの先生方も多くいらっしゃるかと思います。心から御慰労を申し上げます。

さて、2018年10月に理事長を拝命して1年8ヶ月が経過致しました。ご支援頂きました会員、代議員の皆様には厚く御礼申し上げます。1月に発行されたニュースレター13号からこの6ヶ月の活動を4点に絞ってご説明申し上げます。

1. 学術集会の開催

学会のもっとも大きな事業は学術集会の開催です。第47回学術集会は末永直樹会長のもと2020年10月9-10日に札幌市で開催予定です。また第17回日本肩の運動機能研究会が船越忠直会長のもと同時に開催予定です。詳細については、このニュースレターで末永直樹会長から案内があると思いますが、多くの学術集会が延期やWEB開催となる中で、現時点(2020年6月14日)では予定通り札幌で開催できるよう学術集会会長と学会理事会とで緊密に相談しながら鋭意努力をしています。

2. 日本肩の運動機能研究会：

ニュースレター13号でもご報告したとおり、名称を「肩の運動機能研究会」から「日本肩の運動機能研究会」に変更して、日本肩関節学会の傘下として活動しています。このニュースレターで肩の運動機能研究会運営委員会から案内があると思いますが、詳細については日本肩関節学会のホームページ(学会HP)内にある<https://www.j-shoulder-s.jp/jssfr/>をご参照ください。

3. 本年度の代議員募集

学会HPにも公示されていますが、2020年度の代議員の募集人数は、3名となりました。本年度は理事会から推薦(理事会推薦枠)はありませんので、一般公募は3名となります。

4. 代議員の資格審査委員会の設立

本学会は2014年に一般社団法人となりました。設立時に代議員であった先生は6年間の任務を全うされることとなります。本年の定時社員総会時に65歳未満で7年目に入る代議員には、今後の継続意思を事務局で確認し、該当する28名の代議員からすでに継続意思および学術活動の業績の提出をいただいています。代議員選出規則の第8条に代議員の評価項目および評価基準が示されており、第7条(3)にこの評価基準に到達しなかった者は理事会の議によりその資格を失うとあります。ただ今回は、理事会を構成する理事・監事の11名中10名が評価される代議員となります。公正を期するため、特別委員会として今回資格審査される代議員を除いた代議員で構成される“代議員の資格審査委員会”の設立が2020年6月の理事会で承認されました。委員は、理事・監事と日本肩関節学会委員会委員長から構成されます。委員長には理事・監事の中で唯一委員である今井晋二先生が、選出されています。この代議員の資格審査委員会で、

公明正大に審議してもらうことになりました。

2018年の第45回日本肩関節学会学術集会から会員連絡会が中止となっています。本学会からのお知らせは逐次Webサイトで更新しておりますのでご覧頂けたら幸いです。会員の皆様から学会に対する要望がありましたら事務局宛にお知らせください。

まだまだコロナとの戦いは続きますが、会員の皆様の益々の御健勝並びに御発展を祈念申し上げます。

▶ 第47回日本肩関節学会会長あいさつ

第47回日本肩関節学会学術集会 会長 末永直樹

(整形外科 北新病院 上肢人工関節・内視鏡センター センター長)



SARS-CoV-2の流行により会員の皆様におかれましては大変な思いをされていることと存じ上げます。この原稿を作成している5月23日時点で未だ関東圏および第47回日本肩関節学会と第17回日本肩の運動機能研究会が開催される予定の北海道、中でも札幌市においては緊急事態宣言が継続中であり、学会の開催の目途は未だ見当がつかない状況にあります。

そんな中、4月1日より、主題に”保存治療のエビデンス”を追加し、演題募集を開始させていただきました。北海道の気候などを勘案し、開催期日が通年より早いため演題募集のメ切を延長できない中、たくさんの演題登録をどうもありがとうございました。第47回日本肩関節学会には国内から380演題、海外から44演題、また第17回日本肩の運動機能研究会には195題の演題の登録がありました。

現在、代議員規則に基づき第47回日本肩関節学会の演題採択を代議員の先生方に、第17回日本肩の運動機能研究会の演題採択を日本肩の運動機能研究会世話人の先生方に5段階評価の査読を行っていただいております。5月末には集計し、6月末までには採択を決定したいと考えています。

一方、1日目夜開催のLong-term Outcome & Failed Caseカンファレンスのテーマ“複数回の手術を要した人工肩関節置換術の反省と検討”の症例は現在まだ募集を継続していますので、ぜひ御応募をお願い申し上げます。

また2日目の夜に行う予定のSapporo Shoulder Course Satellite Meetingも8月1日からHPで参加申込を開始することにしています。

学会開催に関しては開催方法として、中止、延期、オンデマンド配信、Web開催、ハイブリッド開催、誌面開催、バーチャル開催などが他の学会で検討されています。ご存知のように既に東京オリンピックが延期、全国高校総体、夏の甲子園大会が中止となり、10月開催の国内学会では日本医療・病院管理学会がWeb開催に、日本放射線技術学会は開催中止が決まっています。本学会、研究会につきましても7月末までに理事会にて決定される予定です。開催中止・延期は考えていませんが仮に開催可能であったとしても、マスク着用、physical distanceをとった中、人数制限が必要となる可能性が高いと考えています。また会長招宴、全員懇親会は3密禁止の観点から開催できないと思っています。

さらに大変楽しみにされていた先生方が多いと思いますが、海外からの13人のinvited speakerの来日は現時点で非常に厳しいため、5月末には苦渋の決断ですが企画していた国際シンポジウムは中止と決定する

反省と革新
— 世界へ発信する!! —
Innovation Based on Reflection
-From Asian Experience to the World-

第47回 The 47th Annual Meeting
of the Japan Shoulder Society
日本肩関節学会

2020年10月9日(金)・10日(土)

会場 ホテルエミシア札幌
札幌市厚別区厚別中央2条5丁目
新さっぽろアーケシテイホテル
札幌市厚別区厚別中央2条5丁目

会長 末永直樹
株式会社法人財団 整形外科 北新病院
上肢人工関節・内視鏡センター センター長

第17回日本肩の運動機能研究会
The 17th Annual Meeting of Shoulder Therapists
■ 会長 志藤 敏夫 整形外科 北新病院センター長

大会事務局
日本肩関節学会(財団) 整形外科 北新病院
上肢人工関節・内視鏡センター

主催者連絡
株式会社JPS-北海道支部
〒000-0000 札幌市中央区南一条西1丁目11 日本赤十字札幌ビル
TEL: 011-225-0005 FAX: 011-225-0005
E-mail: jps@jsshonpo.jp

<https://www.congress.cn/jss2020>



予定で、主題メインの学会開催になると考えています。

本学会では事前登録制度を導入し事前登録 13,000 円／当日参加 15,000 円の参加費を予定をしていましたが、学術集会の開催が不透明であることから、事前登録は行わず、当日に事前登録と同等の 13,000 円の参加費で申し込みして頂く予定です。またランチョンセミナーは入場待ち時間の軽減、会場内混雑緩和のため、座席エリア指定制(学会場にて受付)とし、受講料 1,000 円を徴収して、定員になり次第締め切り、座席とお弁当を用意することとしました。さらに企業協賛のワークショップを 7～8 つ予定しており、8 月 1 日から HP で参加申込を開始することにしています。

未だ開催不透明ではあり、全員懇親会もできず予定していた多くの心からのおもてなしができそうにないことは残念な限りですが、10 月の札幌は観光、食、アクティビティなど楽しい季節です。学会 HP に会長プロモーションビデオコーナーを公開しましたので、どうぞご覧ください。まだまだ SARS-CoV-2 の感染拡大の影響は続くと思いますが、ご自愛の上、是非多くの先生方に参加いただけることを期待しています。

▶ 第 48・49 回日本肩関節学会学術集会のお知らせ

第 48 回日本肩関節学会

学術集会会長：岩堀裕介(医療法人三仁会 あさひ病院 スポーツ医学・関節センター)

開催日時：2021年10月29日(金)～30日(土)(予定)

開催場所：ウインクあいち

第 49 回日本肩関節学会

学術集会会長：高瀬勝己(東京医科大学 整形外科学分野 運動機能再建外科学寄附講座 教授)

開催日時：2022年10月7日(金)～8日(土)(予定)

開催場所：パシフィコ横浜ノース(神奈川県横浜市)

▶ 各委員会報告

雑誌「肩関節」編集委員会

委員長 佐野博高

雑誌「肩関節」第 44 巻には、学術集会発表論文 98 編、原著・総説 4 編、症例報告 23 編、proceeding 23 編、合計 148 編の論文をご投稿いただきました。1 回目の査読では 52 名の会員の先生方にも査読委員としてご協力いただき、これを踏まえて 3 月 22 日と 3 月 29 日にオンライン編集委員会を開催しました。現在 2020 年秋の WEB 公開を目指して、2 回目の査読を進めています。この場を借りまして、多くの先生方のご尽力に改めて厚く御礼を申し上げます。

今回の査読では、「senior author による指導が十分行われていないのではないか」という指摘を受けた論文が複数みられました。こうした論文については、査読の負担が増すばかりでなく、規定の 3 回では採用に漕ぎつけられない事態も危惧されます。Senior author の先生方におかれましては、是非投稿前に原稿を十分ご確認くださいませよう、お願いいたします。

また、雑誌「肩関節」投稿規定では、原著論文としての投稿は「学位論文を原則としますが、日本肩関節学会学術集会での発表論文で著者がしっかり書きたいと意思表示し、査読者・編集委員会が許可した場合に可能」と規定しています。この規定に基づき、たとえ原著論文として投稿された論文であっても、査読者が内容的に不十



分と判断した場合は、学術集会発表論文に変更して再投稿するようお勧めすることがあります。投稿者には、文字数や図表の枚数を大幅に減らすなど、大きなご負担をおかけすることになりますが、ご理解のほどよろしくお願いたします。

最後に、当委員会では、投稿者の利便性を高めるために、投稿規定やチェック表を随時改訂しています。論文を執筆される際は、日本肩関節学会の web site (<https://www.j-shoulder-s.jp/entryrule/index.html>) で、必ず最新の情報をご確認下さい。

国際委員会

委員長 三幡輝久

本来であれば2020年10月からのASESトラベリングフェローの応募者面接を日本整形外科学会の会期中に行う予定でしたが、アメリカ全土で新型コロナウイルス感染が急速に拡大しており、アメリカ肩肘関節学会から今回のトラベリングフェローの受け入れを見合わせたいという連絡をいただきました。ご応募してくださった皆様には謹んで深くお詫び申し上げます。次回の募集は2022年になる予定です。

また2020年9月からのSECECトラベリングフェローとして、東北北海道病院の大野洋平先生が選考されており、今秋に韓国からのトラベリングフェローとともにヨーロッパの著名な先生の施設を訪問していただく予定です。しかしヨーロッパでも新型コロナウイルス感染が拡大しておりますので、予定通りに行われるかどうかについてはSECECから連絡を待っている状況です。(＃執筆時の5月末時点)

2021年3月は2名の先生にKSESトラベリングフェローとして韓国を訪問していただく予定で通常であれば募集準備が始まっている時ですが、新型コロナウイルス感染の今後の状況によっては中止になる可能性もあります。募集するかどうかを追ってご連絡申し上げます。

高岸直人賞決定委員会

委員長 船越忠直

第46回日本肩関節学会のベストアブストラクトとして以下の16演題が選ばれました。

基礎:

井上和也 先生 (奈良県立医科大学 スポーツ医学講座)

「Bankart 修復術後の関節窩骨吸収 一有限要素法を用いた検討一」

山田悠司 先生 (池田整形外科医院)

「広範囲腱板断裂の肩甲下筋断裂が三次元肩関節動態に及ぼす影響」

小林雄輔 先生 (京都府立医大大学院 運動器機能再生外科学)

「ラットの肩腱板断裂の修復に対する G-CSF の効果的な役割」

佐野博高 先生 (仙台市立病院 整形外科)

「Bristow 変法術後における烏口突起合併症の発生機序」

佐原亘 先生 (大阪大学 整形外科)

「腱板広範囲断裂における偽性麻痺と非偽性麻痺の三次元動態の違い」

高田裕平 先生 (稲城市立病院 整形外科)

「老齢マウスを用いた腱板断裂後脂肪浸潤モデルの作成とその評価」



中脇充章 先生 (北里大学 医学部 整形外科学)

「腱板断裂後の Apelin の発現と制御機構の検討」

黒澤亮 先生 (神戸大学大学院 整形外科)

「終末糖化産物に対するアポシニンの抗酸化作用の検討」

臨床:

松村昇 先生 (慶應義塾大学 整形外科)

「腱板断裂における筋変性の経時的変化」

糸魚川善昭 先生 (順天堂大学医学部附属浦安病院 整形外科)

「腱板修復術後 1 か月の棘上筋の硬さの増加が再断裂を起こす」

久田幸由 先生 (開西病院 整形外科)

「肩腱板断裂手術後の腱骨癒合を示す X 写真のサイン」

土山耕南 先生 (船橋整形外科病院)

「鏡視下バンカート術後 10 年での関節窩の骨形態の評価」

石谷栄一 先生 (福岡志恩病院 整形外科)

「腱板断端における MRI による Stump 分類と組織像の比較検討」

秋本浩二 先生 (千葉大学大学院医学研究院 整形外科)

「術後 1 年から 2 年での修復後腱板の変化と臨床成績の関連」

三幡輝久 先生 (大阪医科大学 整形外科)

「修復困難な腱板断裂に対する肩上方関節包再建術の 5 年治療成績」

中村秀裕 先生 (久留米大学医療センター 整形外科)

「腱板断裂治療における上腕骨頭後方偏位の臨床的意義」

一ノ瀬剛 先生 (国立病院機構 高崎総合医療センター 整形外科)

「一般住民検診における腱板断裂拡大に関する因子の検討」

なお、2020 年 3 月より新たに基礎、臨床共に経験豊富な大泉尚美先生、二村昭元先生、山本宣幸先生に新委員に加わって頂き、さらに公正で科学的な見地に基づく審査ができるものと考えております。

お忙しい中、ベストアブストラクの論文選定にご協力をいただいた畑 幸彦前会長はじめ、すべての代議員の先生に心からお礼を申し上げて、委員会報告と致します。

委員会構成

担当理事: 伊崎輝昌

委員長: 船越忠直

委員: 青木光広、大泉尚美、北村歳男、後藤英之、中川滋人、二村昭元、夏 恒治、山本宣幸、
畑 幸彦(前会長)、末永直樹(現会長)、岩堀裕介(次期会長)

アドバイザー: 高岸憲二、玉井和哉



教育研修委員会

委員長 後藤英之

今年度の教育研修委員会の活動予定について報告致します。

まず、第5回日本肩関節学会キャグバーワークショップですが、2020年9月11日(金)・12日(土)に、名古屋市立大学先端医療技術イノベーションセンターにて開催準備を進めていました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮して、今年度の開催を中止することに致しました。ワークショップへの参加を予定していた皆様におかれましては誠に申し訳ありません。また、ワークショップに併せて開催を予定していた第5回日本肩関節学会手術手技フォーラムも中止とさせていただきます。どうかご了承ください。来年度以降、開催の目処がつきましたら、ご案内申し上げますのでどうかよろしくようお願い申し上げます。

現在のところ、第12回教育研修会については、第47回日本肩関節学会開催期間中の2020年10月9日、10日に開催予定です。プログラムは今年度と来年度の2年間で一通りの肩関節疾患の診断・治療について研修できるようにプログラムを作成しています。

第12回教育研修会

会場：ホテルエミシア札幌・新さっぽろアークシティホテルを予定)

開催日：2020年10月9日(金)、10日(土) (時間未定)

教育研修講演1 (予定)

座長：いわき市立総合磐城共立病院 整形外科 相澤 利武先生

1. 肩の機能解剖、バイオメカニクス

講師：東北大学 整形外科 山本 宣幸先生

2. 肩の診察、画像診断

講師：至学館大学健康科学部 後藤 英之先生

教育研修講演2 (予定)

座長：至学館大学健康科学部 後藤 英之先生

1. 肩関節不安定症の診断と治療

講師：トヨタ記念病院 整形外科 酒井 忠博先生

2. 腱板断裂(cuff tear arthropathy 含む) の診断と治療

講師：東海大学整形外科 内山 善康先生

これからも教育研修委員会としては、研修会やワークショップを通じて会員の皆様の肩関節診療のお役に立てるように活動して参ります。今後ともご指導、ご意見を賜りますようお願い致します。



学術委員会

担当理事 高瀬勝己

委員長であった森澤豊先生の学会監事就任に伴い委員長に藤井康成先生が就任致しました。このため、担当理事は高瀬勝己、委員は乾浩明、後藤昌史、小林勉、塩崎浩之、田中栄、田崎篤、畑幸彦、林田賢治、浜田純一郎、森原徹、山本宣幸の各先生とアドバイザーの森澤豊先生で活動しております。

現在までに会員の皆様方には、「凍結肩」および「肩鎖関節脱臼」に関するアンケート調査を行わせて頂きその結果を検討してまいりました。浜田純一郎先生のご尽力により Representative survey of frozen shoulder questionnaire responses from the Japan Shoulder Society: What are the appropriate diagnostic terms for primary idiopathic frozen shoulder, stiff shoulder or frozen shoulder? (JOS, 2019 Jul;24(4):631-635)、また高瀬が担当させて頂いておりました肩鎖関節脱臼では Methods used to assess the severity of acromioclavicular joint separations in Japan: A survey. (JSES International, doi.org/10.1016/j.jseint.2019.11.006) として論文掲載されました。これらの研究成果に関しては、第47回学術集会会長である末永直樹先生のご厚意により発表の機会を頂きましたのでご清聴していただければと思います。現在、肩鎖関節脱臼の治療編として Treatment of acromioclavicular joint separations in Japan: A survey を作成し倫理・利益相反委員会より投稿許可を得ましたので英文雑誌に投稿中です。さらに山本委員が中心となって行っている肩関節初回脱臼後の肩関節外旋位固定に関する多施設間研究も現在進行中です。

また、第94回日本整形外科学会学術総会事務局より依頼のあったシンポジウム・パネル案を委員会で検討し6演題を理事会に提出し、審議の結果、下記の2演題を第94回日本整形外科学会学術総会事務局に提出致しました。

- 1.Failure 例から学んだ肩関節疾患の手術成功への秘訣
2. 腱板損傷の基礎医学

今年度の計画としては、肩甲骨白蓋窩 OCD 症例、断裂腱板の脂肪変性の程度が再建手術に及ぼす影響、RSA 術後の成績不良例を委員会内で検討させて頂き、会員の皆様方にアンケート調査を行いたいと思っております。

広報委員会

委員長 北村歳男

広報委員会は年2回のニュースレターの作成をしています。今回で14号の発行になります。14号は新型コロナウイルスの感染の影響でニュースレターの作成が危ぶまれました。大変な影響を被った委員もいましたが、広報委員会の全委員がこれまで通りの委員会活動の希望があったため、2020年度の夏号の作成を行うこととしました。執筆者にも新型コロナウイルスの影響があることが予想され、負担の削減のため各委員会には重要な項目だけを投稿してほしいと依頼しました。

また、新型コロナウイルスの影響でどのような状態になっているか情報を知りたいという会員からの要望があったため、委員会のできる範囲での情報収集を行い、情報発信を行うことにいたしました。これらの結果が学会運営での参考になればと考えておりますし、さらに皆様のお役に立てる情報であれば幸いです。皆様のご協力のもとで発行できましたことに深く感謝いたします。



財務委員会

委員長 中川滋人

財務委員会から会員の皆様へのお願いです。2015年度に法人設立や事務局移転費用・JSES購読料支払いが重なり、一般会計の残高不足が発生したため、高岸直人賞口座からの借入を行いました。2016年度より一般会計から毎年158万円ほど返済しており、2020年度が最終年となります。そのため2021年度以降は収支が改善するものと考えていますが、本学会の財務状況は決して潤沢ではありません。

これまでさまざまな経費削減や増収策に取り組んできましたが、昨今の情勢からなかなか思うに任せないのが実情です。本年から日本肩の運動機能研究会が正式に発足し、2020年10月9日～10日に開催される第17回日本肩の運動機能研究会から演者および共同演者は日本肩関節学会の会員(正会員、準会員1号、準会員2号)に限ることが決定していますが、研究会の安定した運営、そして本学会の財務の改善のためにも、これを機会に先生方の身近におられるコメディカルの方々への入会勧誘を積極的に行っていただけますよう、よろしくお願いいたします。

リバーズ型人工肩関節運用委員会

委員長 山門浩太郎

日本整形外科学会インプラント委員会によるリバーズ型人工肩関節(RSA)ガイドライン(リバーズ型人工肩関節全置換術適正使用基準)ですが、ようやく日整会理事会で承認され(2020年4月)、現在会員専用ページよりダウンロード可能となっております。(詳細は日整会会員専用ページをご確認ください)。

今回の改訂では、腱板断裂性関節症などの主要対象疾患の年齢要件が65歳に引き下げられたことや、実施医基準の要求症例数が緩和されたことなど(肩関節手術40例、腱板断裂手術30例)、大幅な変更がおこなわれています。また、骨折治療を主として担う外傷外科医によるリバーズ型人工肩関節の使用が開始されることに伴い、外傷外科医の資格管理は骨折治療学会の主管する業務となります。一方で、RSA使用にかかわるガイドライン運用の厳格性については基本的に変化することはありません。今後もガイドラインを遵守いただけますようお願い申し上げます。新ガイドラインをご一読されることをお願いいたします。

また、2020年4月から日本整形外科学会症例レジストリー(JOANR)が開始されました。登録にあたって事務仕事量の著しい拡大が生じておりますが、症例登録期間に締め切りが設定されていることに注意が必要となっております。執刀後すみやかな登録をお願いいたします。



肩の運動機能研究会運営委員会

委員長 浜田純一郎

多くの会員のみなさまが日本肩関節学会ホームページ(以下、HP)の右欄、日本肩の運動機能研究会(以下、研究会)のHPに気づかれたのではないのでしょうか。2020年2月に新設されたこのHPから研究会を構成する準会員1号と2号の申し込みができるようになりました。現在、入会を希望される医療従事者さまが多く肩関節学会事務局は大忙しだそうです。

HPは(1)代表世話人である村木孝行先生の挨拶、(2)研究会の肩関節学会での位置づけ、(3)代表世話人、副代表世話人、世話人の紹介、(4)会員制度、(5)研究会の歴史、(6)入会について、の主に6項目から構成されています。まだ閲覧されていない会員さまがおられましたら是非ご覧になり、周囲の医療従事者の方に新規入会を勧めていただくと共にご意見をお寄せくだされば幸いです。

研究会運営委員会(旧ワーキンググループ)は継続可能な研究会の立ち上げを目指し4年間議論、作業を進めてまいりました。昨年は(1)研究会の会則(案)、運営委員会の規則(案)の立案、(2)世話人の選出、(3)研究会の会則・財務・広報担当の選出、(4)HPの立ち上げ、(5)準会員1号、2号の募集、が事業計画であり5項目すべて達成できました。今後は研究会の会則・運営委員会の規則の確定、毎年開催される研究会の開催会長との協力関係構築、研究会組織の円滑な運営をめざし、委員会として新たな出発となります。活発な研究会になるよう今後もご意見を頂きながら運営を進めてまいります。

選挙管理委員会

委員長 森原 徹

2020年度は、理事選挙、代議員選挙、第50回学術集會会長選挙を行います。選挙案内、候補者等の情報は、随時、会員サイトに掲示します。なお、経費削減のため、メールアドレスを登録いただいている会員に対するハガキでの選挙案内は中止いたしますのでご了承ください。

1. 理事選挙について

役員選出規則に基づき、下記の要領で選挙を行います。

選挙日程：2020年10月8日 社員総会で投票、当選人決定

2. 代議員選挙について

代議員選出規則に基づき、下記の要領で選挙を行います。

選挙日程：

2020年8月に候補者氏名等を掲示し、正会員による異議申し立て受付(規則第6条2)

選挙日程：2020年10月8日 社員総会で信任投票、選任投票(規則第6条3)、当選人決定

3. 第50回学術集會会長選挙について

定款第39条に定める学術集會会長について、学術集會会長選挙規則に基づき、下記の要領で選挙を実施します。

選挙日程：2020年10月8日 社員総会で投票、当選人決定

▶ 新型コロナウイルスに対するアンケート調査報告

【はじめに】

新型コロナウイルス感染において日本肩関節学会会員にアンケート調査を行うに至った経緯を説明します。

新型コロナウイルスが猛威を振っていた時期に、広報委員会の各委員における感染の影響が不明なためにニュースレターの夏号の作成が危ぶまれ、作成することが可能であるのか検討に入りました。その時期はメディアでは盛んに世界の最前線の医療崩壊が報道され、盛んに自粛が促される時期であり、整形外科医として都会と地方、クリニックと大病院での立場の違いにより様々な不安な思いがあった時期でした。その時期の委員会内では新型コロナウイルス感染者を受け入れしていた委員も複数ありました。他の施設がどのような状況になっているか知りたいとの発言もありました。広報委員会の活動には会員に最新の情報を伝える役目の活動があるため、委員会では肩学会の会員への影響を調査し、施設での情報を共有し、少しでも感染の状況を把握し、来るべき第2波、第3波の備えになれば役立つ情報になると考えるに至りました。望月由理事と相談し、さらに池上博泰理事長にも相談した上で、日本肩関節学会の関連施設での影響を調査し、第14号ニュースレターに結果を掲載する発案をし、ご許可をいただいた次第です。新型コロナウイルス感染の流行は1回で終わるものではないため、是非この結果を次の備えに生かしていただければ幸いです。

新型コロナウイルス診療に割かれる労力や整形外科本来の外来数や手術数の減少など、労力や経営面への影響など計り知れないほどの影響が多かれ少なかれあったと思います。お忙しい中ご協力いただきました先生方には深く御礼申し上げます。誠に有難うございました。

【目的】

2020年の新型コロナウイルス第1波の整形外科施設への影響とその程度を知り、その情報を共有することにある。日本肩関節学会の会員の施設が対象であるため、肩疾患への影響を主に調査することとした。

【担当・対象・時期】

日本肩関節学会広報委員会がアンケート作成と集計分析を担当した。

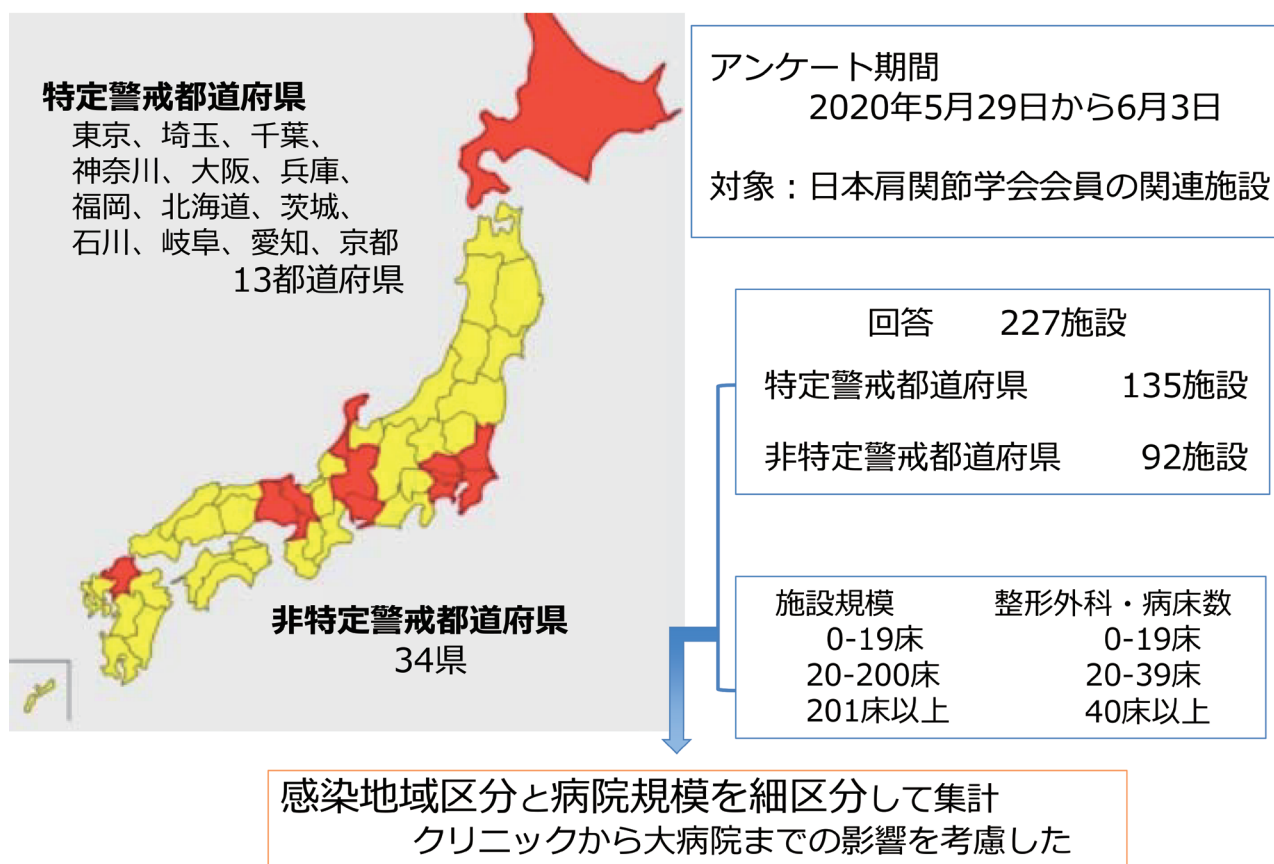
日本肩関節学会の正会員・準会員にインターネットアンケートを行い、所属する施設の代表1名が施設状況について報告を頂いた。

期間は、2020年5月29日に送付し、6月3日までに返答のあった227施設を対象とした。

新型コロナウイルス第一波流行期における 日本肩関節学会会員の診療への影響

日本肩関節学会会員へのアンケート調査結果から

広報委員会調査



病床数別の新型コロナウイルス患者の受け入れ状況

(数値は施設数)

特定警戒都道府県							
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-		
受け入れていない	18	10	13		6	47	34.8
外来のみ受け入れ	3		4		1	8	5.9
入院のみ受け入れ			1	2	16	19	14.1
外来/入院とも受け入れ	1	4	3	6	47	61	45.2
合計	22	14	21	8	70	135	100.0

非特定警戒都道府県							
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-		
受け入れていない	12	11	14	1	12	50	54.3
外来のみ受け入れ			3			3	3.3
入院のみ受け入れ		2			6	8	8.7
外来/入院とも受け入れ	1			1	29	31	33.7
合計	13	13	17	2	47	92	100.0

新型コロナウイルス患者の診療サポートに携わることがありましたか？

(数値は施設数)

特定警戒都道府県							
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-		
ある	2	2	2	2	32	40	29.6
ない	20	12	19	6	38	95	70.0

非特定警戒都道府県							
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-		
ある		1	2		9	12	13.0
ない	13	12	15	2	38	80	87.0

診療に影響するような新型コロナウイルスの発生がありましたか？

(数値は施設数)

特定警戒都道府県							
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-		
発生があった		1	3	2	11	17	12.6
なかった	22	13	18	6	59	118	87.4
非特定警戒都道府県							
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-		
発生があった					3	3	3.3
なかった	13	13	17	2	44	89	96.7

新型コロナウイルス感染患者の発生は診療に何らかの影響がありましたか？

(数値は施設数)

特定警戒都道府県							
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-		
大変影響している	8	2	7	3	35	55	40.7
多少影響している	12	10	14	5	32	73	54.1
影響していない	2	2			3	7	5.2
非特定警戒都道府県							
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-		
大変影響している	4	2	1	1	16	24	26.1
多少影響している	7	9	15	1	23	55	59.8
影響していない	2	2	1		8	13	14.1

肩疾患別の外来患者数への影響

(数値は施設数)

肩疾患	全病床数 整形外科病床数	特定警戒都道府県						小計	%
		0-19	20-200		201-				
			-39	40-	-39	40-			
外傷（骨折，脱臼など）	減少	15	6	17	6	50	94	69.6	
	変わらない	7	8	3	2	18	38	28.1	
	増加			1		2	3	2.2	
スポーツ疾患	減少	22	11	20	7	67	127	94.1	
	変わらない		3	1	1	3	8	5.9	
	増加						0	0.0	
変性疾患	減少	18	8	14	7	61	108	80.0	
	変わらない	3	6	6	1	9	25	18.5	
	増加	1		1			2	1.5	

肩疾患	全病床数 整形外科病床数	非特定警戒都道府県						小計	%
		0-19	20-200		201-				
			-39	40-	-39	40-			
外傷（骨折，脱臼など）	減少	7	5	12	2	29	55	59.8	
	変わらない	6	8	5		17	36	39.1	
	増加					1	1	1.1	
スポーツ疾患	減少	12	9	14	2	41	78	84.8	
	変わらない	1	4	3		6	14	15.2	
	増加						0	0.0	
変性疾患	減少	10	7	12	2	37	68	73.9	
	変わらない	3	6	5		10	24	26.1	
	増加						0	0.0	

手術のための防護用具は足りていましたか？

それによる手術制限はありましたか？

(数値は施設数)

手術のための 防護用具	全病床数 整形外科病床数	特定警戒都道府県						小計	%
		0-19	20-200		201-				
			-39	40-	-39	40-			
足りていなかった	手術制限した	3	2	1	1	12	19	14.1	
	手術制限しなかった	3	1	9	3	14	30	22.2	
足りていた	手術制限した	6	5	6	3	27	47	34.8	
	手術制限しなかった	10	6	5	1	17	39	28.9	

手術のための 防護用具	全病床数 整形外科病床数	非特定警戒都道府県						小計	%
		0-19	20-200		201-				
			-39	40-	-39	40-			
足りていなかった	手術制限した		2	2		13	17	18.5	
	手術制限しなかった	3		3		9	15	16.3	
足りていた	手術制限した	1	3	1		9	14	15.2	
	手術制限しなかった	9	8	11	2	16	46	50.0	

外来・入院でのリハビリは中止や制限がありましたか？

(数値は施設数)

		特定警戒都道府県						
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%	
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-			
外来, 入院とも中止				1	6	7	5.2	
外来は中止, 入院は制限	1	2	1	1	15	20	14.8	
外来は制限, 入院は中止	2				3	5	3.7	
外来, 入院とも制限	8	5	9	3	30	55	40.7	
外来, 入院とも制限なし	11	7	11	3	16	48	35.6	

		非特定警戒都道府県						
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%	
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-			
外来, 入院とも中止		1			1	2	2.2	
外来は中止, 入院は制限			1		11	12	13.0	
外来は制限, 入院は中止						0	0.0	
外来, 入院とも制限	3	7	4	1	13	28	30.4	
外来, 入院とも制限なし	10	5	12	1	22	50	54.3	

外来で新型コロナウイルスの対策をしていますか？

(数値は施設数)

		特定警戒都道府県						
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%	
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-			
外来対策をしている	21	14	21	7	66	129	95.6	
外来対策していない	1			1	4	6	4.4	

		非特定警戒都道府県						
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%	
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-			
外来対策をしている	13	13	17	2	47	92	100.0	
外来対策していない						0	0.0	

外来での対策 具体例

全病床数		特定警戒都道府県						小計	%
整形外科病床数		0-19	20-200		201-				
			-39	40-	-39	40-			
対策内容	マスク着用	20	14	20	6	68	128	94.8	
	ゴーグル着用	5	2	6	1	11	25	18.5	
	フェイスガード着用	3	3	3	2	7	18	13.3	
	手袋着用	3	1	3	2	6	15	11.1	
	ガウン着用		1			1	2	1.5	
	アクリル板などの設置	3	2	2	1	6	14	10.4	
	患者入室時に手指消毒	15	6	12	1	24	58	43.0	
	外来予約数制限	2	4	2	1	16	25	18.5	
	オンライン診療	4	3	4	1	18	30	22.2	
	フォローアップ間隔を延ばす	11	8	13	5	50	87	64.4	
	玄関での検温	17	13	19	6	50	105	77.8	
	他県からの診療は断る				1	3	4	3.0	
	救急隊からの要請で熱のある患者は断る	3	3	9	1	11	27	20.0	
	救急隊からの要請は全て断る	1		1	1	5	8	5.9	
	その他	2		1	1	5	9	6.7	

全病床数		非特定警戒都道府県						小計	%
整形外科病床数		0-19	20-200		201-				
			-39	40-	-39	40-			
対策内容	マスク着用	11	12	16	2	46	87	94.6	
	ゴーグル着用	1	4			5	10	10.9	
	フェイスガード着用	2	1	1		6	10	10.9	
	手袋着用	4	2	2		5	13	14.1	
	ガウン着用	1				1	2	2.2	
	アクリル板などの設置	5	2	7		6	20	21.7	
	患者入室時に手指消毒	9	5	9	2	17	42	45.7	
	外来予約数制限	1	2	1	1	16	21	22.8	
	オンライン診療		4	1		13	18	19.6	
	フォローアップ間隔を延ばす	7	8	13	1	30	59	64.1	
	玄関での検温	8	11	14	1	30	64	69.6	
	他県からの診療は断る	3	3	7	1	17	31	33.7	
	救急隊からの要請で熱のある患者は断る	2	3	5		4	14	15.2	
	救急隊からの要請は全て断る						0	0.0	
	その他	1				3	4	4.3	

入院での新型コロナウイルスの対策をしていますか？

(数値は施設数)

全病床数		特定警戒都道府県						小計	%
整形外科病床数		0-19	20-200		201-				
			-39	40-	-39	40-			
入院対策をしている		12	14	21	7	67	121	89.6	
入院対策していない		10			1	3	14	10.4	

全病床数		非特定警戒都道府県						小計	%
整形外科病床数		0-19	20-200		201-				
			-39	40-	-39	40-			
入院対策をしている		7	13	16	2	46	84	91.3	
入院対策していない		6		1		1	8	8.7	

入院での対策 具体例

(数値は施設数)

		特定警戒都道府県							
全病床数		0-19	20-200		201-		小計	%	
整形外科病床数			-39	40-	-39	40-			
対策内容	マスク着用	10	11	20	6	62	109	80.7	
	ゴーグル着用	1	2	3		9	15	11.1	
	フェイスガード着用	1		1	1	5	8	5.9	
	手袋着用	1	3	4	1	13	22	16.3	
	ガウン着用					2	2	1.5	
	一人診察ごとに手指消毒	9	10	16	2	48	85	63.0	
	入院前に全員PCR検査	1		1	1	20	23	17.0	
	入院患者の面会謝絶	5	14	17	5	47	88	65.2	
	その他	3	4	3	6	7	23	17.0	
			非特定警戒都道府県						
全病床数		0-19	20-200		201-		小計	%	
整形外科病床数			-39	40-	-39	40-			
対策内容	マスク着用	5	11	14	2	42	74	80.4	
	ゴーグル着用		2	1		2	5	5.4	
	フェイスガード着用					2	2	2.2	
	手袋着用		2	1		5	8	8.7	
	ガウン着用					1	1	1.1	
	一人診察ごとに手指消毒	4	6	9	1	25	45	48.9	
	入院前に全員PCR検査		1			2	3	3.3	
	入院患者の面会謝絶	6	11	16	1	36	70	76.1	
	その他	1				8	9	9.8	

その他 具体的対策例

ゾーニング

- ・病棟別の看護師、療法士のゾーニング。
- ・入院患者がリハ室に行き来する時に使用する階段を指定する。
- ・感染流行時は整形外科スタッフを2チーム編成し、接触を極力避けて感染予防（2施設意見あり）。

行動制限

- ・原則として外出禁止。

検査

- ・救急外来から手術必要な患者は抗原検査。
- ・CTがbetterだが、なければ胸部レントゲンを頻回にして対処すると良い。
- ・胸部CTを活用する。
- ・手術患者にはLAMP法による検査。

診療サポート

- ・手術をすべて中止してあいた外科系人材を搬送やPPE装着指導、レッドゾーン清掃などのコロナ診療サポート。

患者数制限

- ・発熱者は全例手術延期。

新型コロナウイルスで実際に診療でのトラブルがありましたか？

(数値は施設数)

		特定警戒都道府県						
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%	
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-			
トラブルがあった	3	2	4		7	16	11.9	
トラブルはなかった	19	12	17	8	63	119	88.1	

		非特定警戒都道府県						
全病床数	0-19	20-200		201-		小計	%	
整形外科病床数		-39	40-	-39	40-			
トラブルがあった		1	1		5	7	7.6	
トラブルはなかった	13	12	16	2	42	85	92.4	

トラブルに対するコメントのまとめ

クレーム

- ・院内感染に伴う休診や、手術の中止・延期に伴うクレームやキャンセル

経営の問題

- ・院内感染が生じて休診
- ・患者激減による経営困難

面会の問題

検査に関する問題

- ・感染患者のCT検査後の消毒などでCT検査の制限があった

情報伝達不足

- ・感染患者に関節注射をしてしまった
- ・転院に際して新型コロナウイルス関連の情報が伝えられておらず、転院後の検査でPCR陽性が確認された（病院間での情報伝達不足）
- ・前日に他院でPCR検査されていた患者がそれを言わずに受診した（患者からの情報伝達不足）

など



感想：

新型コロナウイルス感染に関する提言などの重要な情報はすでに日本整形外科から出されており、ご参照いただければと思います。

来るべき第2波、第3波の対策の準備は各施設の規模によりそれぞれが可能な範囲で進んでいるものと思います。すでに様々な学会から情報が出ていますので今回の日本肩関節学会の会員の情報も参考の1つになれば幸いです。

このアンケートで印象的であったのは最後のスライドにあるトラブル項目の「情報の伝達不足」でした。他のアンケートにはない肩関節学会会員の中での“つぶやき”と思います。進歩した技術や物理的な感染予防が自分の所属する施設の防御に有効であることは言うまでもありません。そしてさらにお互いを信頼し感染拡大を抑制するような協力する心がなければ関連する施設との連携が困難になります。お互いに連携協力して対処していく姿勢が大事だと思います。そのためには面倒でも、”病院間での情報の共有、患者と医師との情報の共有”をしっかりと行うことが、物理的な予防とは異なる次元で感染予防に必要と感じました。とくにリハビリの紹介患者においては患者と施設、施設と施設の間において信頼のできる情報共有の体制づくりが大事と考えます。様々な工夫と近隣施設との協力の元に、無事第2波、第3波の感染に耐えられますよう、そして社会に安寧が戻りますよう心からお祈りします。

▶ 事務局からのお知らせ

このたよりを書いているのは6月半ばなので、発刊となる6月末にはコロナは収束もしくはコロナと共存していく生活になっているのでしょうか。

一般の企業人の事務局は、3月上旬より在宅勤務推奨となり、緊急以外の出張、打合せ等の外出も控えることになりました。3月から6月現時点で、出張「0」件、どうしても対面で行わなければいけない会議（外出）2件、という例年にない対応状況になっています。

会社で受注していた学術集会、研究会、国際会議、企業イベントなども延期または中止、もしくはオンライン開催などへ移行となり、担当者も対応に追われておりました。

4月に東京が緊急事態宣言を発令してからは、在宅勤務推奨が実施に変わり、週1日の郵便物、FAX等の確認のための出勤以外は在宅勤務となりました。会社支給のノートPC1台とネット環境があれば、会社のネットワークや共有サーバに接続して仕事が出来てしまうので、特に支障はなかったのですが、慌てて自宅で使用するデスクトップモニターを1台購入し、在宅勤務に備えました。事務局の電話が常時留守電対応となり、先生方にはご迷惑をお掛けいたしました。

片道1時間半の通勤が不要になったことは大きなメリットでしたが、その分まったく歩かず、スマホの歩数計が20歩だった時は少し血の気がひきました。

現在は、社内での「密」を防ぐため在宅勤務と出社勤務体制を続けており、希望者には「飛沫防止簡易パテーション」を配布して感染防止に努めている状況です。朝の通勤の混雑も徐々にコロナ前のように戻ってきたので、場合によっては時差通勤もまた必要になるのではないかと懸念しております。

医療に従事している先生方は常に感染の危機に直面しているのに、私たちは在宅勤務でなんだか歯がゆい気持ちでしたが、感染拡大を防ぐにはこの行動が必要不可欠であったのだと思います。

先生方におかれましては、まだまだ予断を許さない状況ではあるかと思いますが、どうぞお体にお気をつけください。



一般社団法人

日本肩関節学会

Japan Shoulder Society

Newsletter

編集

広報委員会

後記

松浦恒明

2020年の春、新型コロナウイルス感染によって日本及び世界は医療、社会経済などあらゆる面で大混乱の中にあります。

このような状況においては情報の共有とその双方向性が極めて重要となります。

日本肩関節学会広報委員会として何ができるか。

それは肩にかかわる日本肩関節学会会員の皆様に少しでも異なる立場の医療現場の現況をお知らせし、情報を共有すること、そしてそれらを糧に互いに共感力を高め協力しあうことの尊さを心に刻みこむこと、それらが今後のそして新たなる感染対策を含めた医療体制構築の一助になることを祈念するものであります。今回のニュースレターに掲載した「新型コロナウイルスに対するアンケート調査報告」が、会員皆様のお役に立てれば幸いです。

最後に、お時間のない中、迅速にアンケートを含めたニュースレター作成に多大なる貢献をされた望月由理事、北村歳男先生、夏恒治先生には厚く御礼申し上げます。また各広報委員会委員の諸先生方には迅速に意見提出をしていただき、誠にありがとうございました。

編集責任者として、未熟な部分を補っていただいた諸先生方に熱く御礼申し上げます。



一般社団法人

日本肩関節学会

Japan Shoulder Society

編集：一般社団法人日本肩関節学会 広報委員会

望月由（担当理事）、北村歳男（委員長）、新井隆三、石田康行、大前博路、菊川憲志、国分毅、小林勉、夏恒治、西中直也、松浦恒明、村成幸

発行：一般社団法人日本肩関節学会

〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル 8 階 株式会社アイ・エス・エス内

TEL03-6369-9981/FAX03-6369-9982

E-mail office@shoulder-s.jp URL :<https://www.j-shoulder-s.jp/>